

# 第4回 繊維産業のサステナビリティに関する検討会

## 責任あるサプライチェーン管理

2021年4月

製造産業局

生活製品課

# 1. 背景

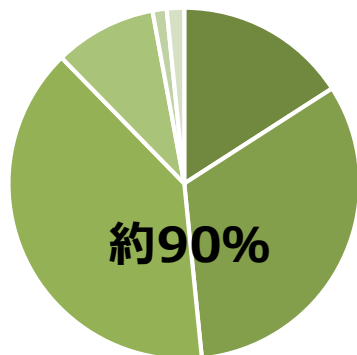
2. サステナビリティ認証スキーム
3. 責任あるサプライチェーン管理
4. 民間における取組事例

# 1. 背景（消費者の関心）

- 製品を購入する際に、トレーサビリティや環境負荷を考慮するという消費者の割合は、増加傾向にある。

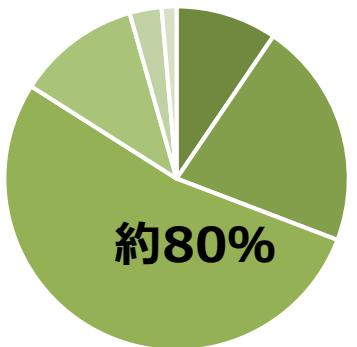
## トレーサビリティへの共感度

ファッション製品にもトレーサビリティが取れた方が良いということに共感できるか



とても共感できる～  
やや共感できるとの  
回答が約90%を占める

トレーサビリティの取れているファッション製品を選ぼうと思うか

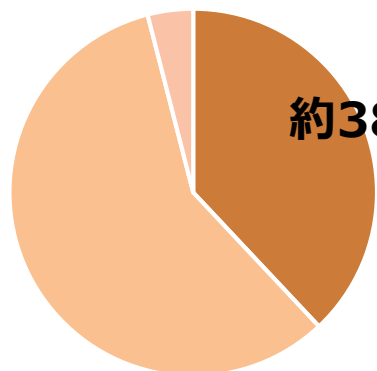


進んで選ぼうと思う～  
できれば選ぼうと思う  
との回答が約80%を  
占める

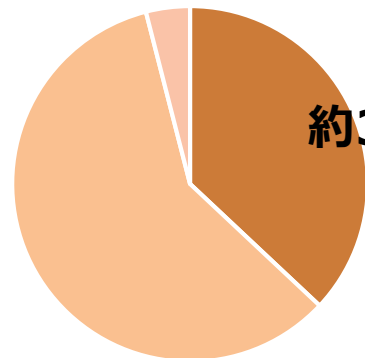
出典： 豊島（株）ファッションの環境意識調査（2020年9月）  
<https://www.toyoshima.co.jp/news/detail/219>

## 環境負荷等への考慮

衣類を購入する際に社会又は環境に与える影響を考慮するか



社会的影響を  
考慮する



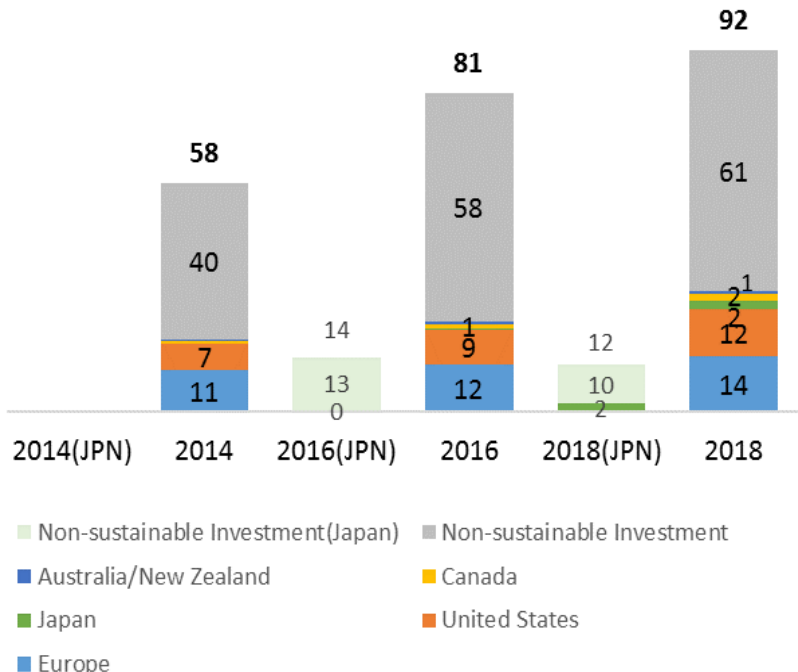
環境的影響を  
考慮する

出典： Fashion Revolution consumer Survey 2018

# 1. 背景 (ESG投資)

- 投資の呼び込みの観点からESGへの配慮が重要になる中、「G (ガバナンス)」、「環境 (E)」だけでなく、人権と地域社会、健康と安全といった「社会 (S)」の要素も、企業は重視しつつある。
- ESG投資の世界全体の総額は、2018年には、30.7兆ドルまで拡大。

投資市場全体に占めるESG (サステナブル) 投資額の推移 (兆ドル)



< 出典 > Global Sustainable Investment Review 2016、2018より作成

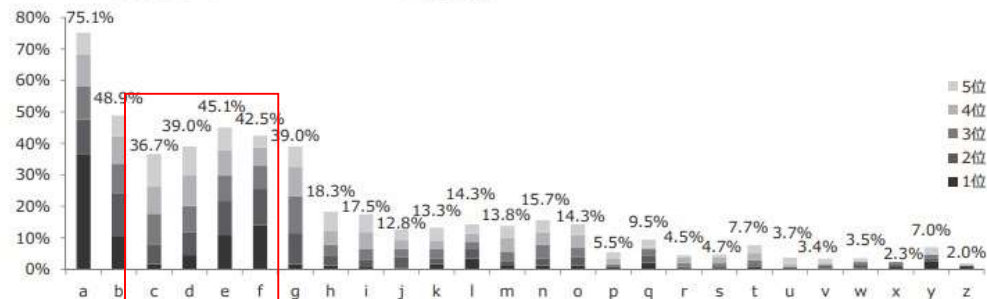
生命保険協会が企業に対して行ったアンケートでは、ESG活動における主要テーマとして、「コーポレートガバナンス (75.1%)」、「気候変動 (48.9%)」の他にも、「ダイバーシティ」(36.7%)、「人権と地域社会」(39.0%)、「健康と安全」(45.1%)、「製品サービスの安全」(42.5%)といったS (社会) の要素を選んだ企業も多くあった。

Q7. 環境 (E) ・社会 (S) ・ガバナンス (G) (以下、「ESG」) への取り組みについてお伺いします。

一般社団法人 生命保険協会

(4) ESG活動における主要テーマを1位から順にお答えください。(最大5位まで)

- |                     |              |                   |
|---------------------|--------------|-------------------|
| a. コーポレートガバナンス      | j. 取締役会構成・評価 | s. 森林伐採           |
| b. 気候変動             | k. 汚染と資源     | t. 不祥事            |
| c. <b>ダイバーシティ</b>   | l. 環境市場機会    | u. 腐敗防止           |
| d. <b>人権と地域社会</b>   | m. 廃棄物管理     | v. 少数株主保護 (政策保有等) |
| e. <b>健康と安全</b>     | n. 労働基準      | w. 紛争鉱物           |
| f. <b>製品サービスの安全</b> | o. 資本効率      | x. 税の透明性          |
| g. リスクマネジメント        | p. 水資源・水使用   | y. 海洋プラスチック       |
| h. 情報開示             | q. 社会市場機会    | z. ESG活動を行っていない   |
| i. サプライチェーン         | r. 生物多様性     |                   |



(回答数:2019年度:[1位]483,[2位]472,[3位]464,[4位]436,[5位]411)

出典: 「生命保険会社の資産運用を通じた『株式市場の活性化』と『持続可能な社会の実現』に向けた取組について」 (一般社団法人生命保険協会 (2020年))

1. 背景

**2. サステナビリティ認証スキーム**

3. 責任あるサプライチェーン管理

4. 民間における取組事例

## 2. サステナビリティ認証スキーム

- 欧米を中心に、繊維製品及びその製造工程における環境安全、労働、企業統治等への配慮に関する様々な認証スキームが設立、運営されている。

### ○ 主な国際認証スキームホルダー

	OEKO-TEX	Bluesign	Textile Exchange	GOTS
設立	1992年	1997年	2002年	2002年
本部	OEKO-TEX ASSOCIATION (スイス チューリッヒ)	Bluesign technology (スイス ザンクトレガン)	Textile Exchange (アメリカ テキサス)	Global Standard GmbH (ドイツ デュッセルドルフ)
日本における 認証機関	一般財団法人ニッセンケン 品質評価センター	SGSジャパン株式会社	Control Union Japan、 一般財団法人ケケン認証センター、 Ecocert-Japan、 NSFインターナショナル	Control Union Japan、 Ecocert-Japan
認証 内容	有害な化学物質 <ul style="list-style-type: none"> <li>繊維用化学薬剤 (染料、紡剤、加工材)</li> <li>繊維製品及びそれに関連するもの (一部工程含む。)</li> <li>レザー製品及びそれに関連するもの (一部工程含む。)</li> <li>施設・工場</li> </ul>	システムパートナー (企業) <ul style="list-style-type: none"> <li>資源の生産性</li> <li>消費者の安全性</li> <li>排ガス</li> <li>排水</li> <li>労働衛生と安全性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸入、販売</li> <li>入出荷</li> <li>記録管理、教育</li> <li>製造、保管</li> <li>サプライヤーより認証を取得</li> <li>社会面、環境面化学物質面の観点からGRS、OCSの認証を展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーガニック繊維の生産についての要件</li> <li>繊維素材の組成についての要件</li> <li>全ての製造工程で、使用するケミカルの規制</li> <li>繊維の品質や安全評価や環境負荷にパラメータ等の規定</li> <li>サプライチェーン全てにおける社会的基準を規定</li> </ul>

## 2. サステナビリティ認証スキーム (Textile Exchange)

- Textile Exchange (TE) は、アメリカ テキサスに本部を置くグローバル非営利団体。繊維 原料に対して、オーガニックやリサイクル、動物福祉といった観点から認証スキームを策定している。
- 具体的には、以下の認証スキームを有する。

### ○Textile Exchange認証スキーム

種類	対象	プロセス要件	CCS※	投入材料の要件
OCS (Organic Content Standard)	最終製品における <u>オーガニック栽培原料</u> の含有量の検証・追跡	—	○	オーガニック農場基準
RCS (Recycle Claim Standard)	正当に回収された <u>リサイクル原料</u> の検証・追跡	—	○	リサイクル投入材料
GRS (Global Recycle Standard)	<u>リサイクル原料</u> の検証・追跡に加え、各 <u>サプライチェーン</u> が社会的責任・環境への活動・化学物質規制の基準を満たしていることを検証	社会的要件 環境的要件 化学的要件	○	リサイクル投入材料
RDS (Responsible Down Standard)	<u>羽毛原料</u> (動物福祉に配慮した牧場で産出された)の検証・追跡	—	○	動物福祉
RWS (Responsible Wool Standard)	<u>羊毛原料</u> (動物福祉と土壌汚染に配慮した牧場で産出された)の検証・追跡	—	○	社会要件 土壌管理 動物福祉
RMS (Responsible Mohair Standard)	<u>モヘア原料</u> (動物福祉と土壌汚染に配慮した牧場で産出された)の検証・追跡	—	○	社会要件 土壌管理 動物福祉

## 2. サステナビリティ認証スキーム（GOTS）

- Global Organic Textile Standard（GOTS）は、ドイツ デュッセルドルフに本部を置く非営利活動有限会社により運営されている、オーガニックテキスタイルの世界的基準。
- 認証に対しては、環境・社会的責任の視点において厳格かつ拘束力のある要件を設定。

GOTS（ゴッツ）とは	
繊維製品を製造加工するための国際基準です。 オーガニックのコットン、ウール、麻、絹などの原料から 環境的・社会的に配慮した方法で製品をつくるための基準です。	
【原料】	使用される繊維全体の95%以上(Organicと表記)、もしくは70%以上(Made with Organicと表記)のオーガニック繊維 残りの非オーガニックの繊維は、オーガニック繊維と同じ種類のものは使えない 非オーガニックコットンやミューリングされたウール、未使用ポリエステルなどは使用比率に関わらず使えない。
【一貫した認証】	原料から最終製品まで、全ての工程をカバー
【トレーサビリティ】	製品の追跡可能性が確保されている
【有機製品精度】	オーガニック以外の製品との混同、汚染されない管理
【残留物】	最終製品に残留物がないかチェック
【環境配慮】	水・エネルギーの使用や廃棄物に関しての環境目標を設定
【薬剤使用制限】	廃水処理方法や生分解性の基準に基づき、毒性の強い薬剤を使用しない
【GM 禁止】	原料や助剤等に遺伝子組換え技術は使わない
【動物実験禁止】	生体実験をしない
【雇用倫理】	強制労働・児童労働の禁止
【労働環境】	衛生的で安全な労働環境と搾取のない労働条件である
【差別禁止】	差別禁止が実践されている

### 【原料】

使用される繊維全体の95%以上（Organicと表記）、もしくは70%以上（Made with Organicと表記）のオーガニック繊維。

残りの非オーガニックの繊維は、オーガニック繊維と同じ種類のものは使えない。

非オーガニックコットンやミューリングされたウール、未使用ポリエステルなどは使用比率に関わらず使えない。

### 【雇用倫理】

強制労働・児童労働の禁止。

### 【労働環境】

衛生的で安全な労働環境と搾取のない労働条件である。

### 【差別禁止】

差別禁止が実践されている。



1. 背景
2. サステナビリティ認証スキーム
- 3. 責任あるサプライチェーン管理**
4. 民間における取組事例

### 3. 責任あるサプライチェーン管理（国際的議論）

- 責任あるサプライチェーン管理を推進するため、国際機関においてもガイダンス等が作成されている。
- 衣類・履物セクターについては、2017年、「衣類・履物セクターにおける責任あるサプライチェーンのためのデュー・ディリジェンス・ガイダンス」が公表された。

#### OECD衣類・履物セクターにおける責任あるサプライチェーンのためのデュー・ディリジェンス・ガイダンス

- 2017年2月公表。
- 「OECD多国籍企業行動指針」に従ったデュー・ディリジェンス（DD）の実施を支援するため、衣類と履物セクターにおけるDDの共通理解の促進、企業が実際にどのようにDDを行うかに関する推奨方法の提示を目的とする。
- 構成は以下のとおり。



#### セクションⅠ：DDに関する実務的な枠組みの提示

- ①責任ある企業方針の採択、②実際または潜在的な害悪の特定、③負の影響の停止・防止・軽減措置、④措置のモニタリング、⑤デュー・ディリジェンスプロセスの公開、⑥改善措置の提供または協力

#### セクションⅡ：衣類・履物セクターにおける具体的リスクの提示

- ①児童労働、②セクシャル・ハラスメント、③強制労働、④労働組合、⑤安全衛生、⑥水、⑦賃金、⑧労働時間、⑨贈収賄と汚職、⑩内職従事者、⑪有害化学物質、⑫温室効果ガスの排出

※上記リスクをDDの枠組みの中にどのように組み込み、対応すべきかという情報を提供する。

1. 背景

2. サステナビリティ認証スキーム

3. 責任あるサプライチェーン管理

**4. 民間における取組事例**

## 4. 民間における取組事例（中小・中堅企業）

- 認証の取得により、企業活動や商品の差別化、工場の信頼性につなげるという動きが、国内でも活発になっており、中小・中堅企業においても認証取得が始まっている。



2010年GOTS取得

### 小林メリヤス株式会社（山梨県南アルプス市）

代表取締役社長 木村 彰

ベビー子供専門のニットメーカー。ブランド「cofucu baby」を展開。  
「トレーサビリティ可能で、安心・安全な原材料取得を目的に取得。  
GOTS認証取得により、原材料、工場の信頼性が担保され、国内外からの引き合いが多い。」



2019年TE取得

### 西染工株式会社（愛媛県今治市）

代表取締役 山本敏明

タオルをはじめ、繊維製品全てを染色加工等を行う。臭いの原因である雑菌の繁殖を抑制する「におわないタオル」を製造・販売。

「きっかけは、環境問題への意識であったが、海外販売のために取得。欧米向けに輸出販売を行う場合、メイド・イン・ジャパンのみでなく、グローバル認証の取得が必須となっている。」

## 4. 民間における取組事例（繊維関係検査機関）

- ニッセンケン品質評価センター、ケケン試験認証センターの他、これまで繊維製品検査を担ってきた機関が、サプライチェーン管理に関する新たな取組を始めている。

### 一般財団法人ニッセンケン品質評価センター

OEKO-TEXアジア唯一の認証機関として事業活動中。



### 一般財団法人ケケン試験認証センター

2021年4月、TE認証機関登録。  
日本国内では初の認証機関。



### 一般財団法人カケンテストセンター

国内においてはまだ実績は無いが、海外においてCSR監査を実施。  
中国工場に対しては、子会社（上海科懇檢驗服務有限公司）が実施し、年50件程度の実績を上げている。  
2020年は新型コロナウイルス感染拡大により、5件実施。

### 一般財団法人日本繊維製品品質技術センター（QTEC）

2017年6月、米国検査機関IDFLと業務提携し、羽毛トレーサビリティ監査をグローバル展開。  
2020年12月、検査・認証チームでCSR監査業務を本格的に実施。  
ガバナンス、人権、労働慣行、環境、公正な事業慣行など、幅広い分野を対象項目としてCSR監査を実施。

### 一般財団法人ボーケン品質評価機構

サステナブルアパレル連合(SAC)グローバルメンバー、Higg FEM認定教育訓練機関、AFIRMガイドラインに基づく分析報告書発行機関。  
グローバル認証企業であるSGS（仏）との提携により、監査機能の強化に取り組んでいるところ。